

1. 日米株式と円/ドルの推移



(注)チャートは過去1年

	単位	2023/12/31	2024/1/31	2024/2/9	過去3年高値		過去3年安値	
		(前年末)	(前月末)	(前週末)	水準	日付	水準	日付
日経平均	円	33,464.17	36,286.71	36,897.42	37,287.26	2024/2/9	24,681.74	2022/3/9
NYダウ	ドル	37,689.54	38,150.30	38,671.69	38,783.62	2024/2/2	28,660.94	2022/10/13
円/ドル	円	141.04	146.92	149.29	151.95	2022/10/21	104.41	2021/2/10

過去3年高値・安値はザラ場ベース / 当社が信頼できると判断した情報に基づき作成

2. 日本株市場 先週の振り返り

～日米の好調な10-12月期決算を背景に上昇～

先週の日本株市場は、日経平均が+739.40円(+2.04%)、TOPIXが+18.20ポイント(+0.72%)となり、日米の好調な10-12月期決算を背景に上昇しました。業種別でみると、輸送用機器、水産・農林業、その他金融業などの18業種が上昇した一方、海運業、繊維製品、電気・ガス業などの15業種が下落しました。

週初5日は、先々週末の米国株市場が主要企業の好調な10-12月期決算や雇用統計の強い結果を受けて大幅上昇したことや、米長期金利の上昇を受けて円安ドル高が進行したことなどから上昇して始まりました。翌6日は、パウエルFRB(米連邦準備理事会)議長が早期の利下げに否定的な考えを示したことを受け、前日の米国株市場が下落したことから反落しましたが、その後は、①好調な四半期決算を背景に米国株市場が上昇したこと、②好決算を発表した企業の関連株が大きく買われたこと、③日銀の内田副総裁の発言を受けて日銀がマイナス金利解除後も緩和的な金融政策を維持するとの観測が強まったことなどから上昇しました。週末9日は、日経平均は続伸した一方、TOPIXは連休を控えた買い控えの動きなどから小幅下落して引けました。

3. 今週の主な予定

日程	曜日	国・地域	項目	期間	前回
2月13日	Tue	日本	企業物価指数(前年比)	1月	+0.0%
		ドイツ	ZEW期待指数	2月	15.2
		米国	CPI(消費者物価指数)(除食品・エネルギー/前年比)	1月	+3.9%
2月14日	Wed	欧州	ユーロ圏鉱工業生産(前月比)	12月	▲0.3%
		日本	GDP(国内総生産)速報値(前期比年率)	10-12月期	▲2.9%
2月15日	Thu	米国	ニューヨーク連銀製造業景気指数	2月	▲43.7
			小売売上高(除自動車)(前月比)	1月	+0.4%
			フィラデルフィア連銀製造業景況指数	2月	▲10.6
			鉱工業生産(前月比)	1月	+0.1%
			第3次産業活動指数(前月比)	12月	▲0.7%
2月16日	Fri	日本	住宅着工件数	1月	1,460千件
		米国	PPI(生産者物価指数)(除食品・エネルギー/前年比)	1月	+1.8%
			ミシガン大学消費者信頼感指数	2月	79.0
決算発表予定 他	国内	決算発表 :	2/13 鹿島、INPEX、日清食品H、JT、シマノ、出光興産、SMC、ホシガキ、パンパシ、光通信 2/14 大塚HD、SUMCO、電通G、日本ペイH、ゆうちょ銀、山崎パン、TOPPANホールディングス、日本郵政、オリパス、近鉄GHD、住友林業、キリンHD、マツコ、T&DHD、NIPPON EXPRESS、クボタ、かんぼ生命、朝日インテ、第一生命H、荏原、ソニーG、楽天G、ヤマハ発、アサヒGH、東京海上、SOMPO、パンナムH、MS&AD 2/15 トレント、サントリー 2/16 プリチストン		
	海外	決算発表 :	2/13 バイオシエン、コカ・コーラ、AIG、エアビーズ、リフト 2/14 シスコシステムズ 2/15 アプライド、トアダッシュ、コインベース・グローバル、ステラシティ、エアバス、ルノー、コルツ銀		

※ 当社が信頼できると判断した情報に基づき作成

4. 日本株市場 今週の見通し

～米重要経済指標の発表を控えた様子見姿勢や高値警戒感が重しとなるも、国内企業の堅調な決算を評価した買いが継続し緩やかに上昇～

今週の日本株市場は、米重要経済指標の発表を控えた様子見姿勢や高値警戒感が重しとなるも、国内企業の堅調な決算を評価した買いが継続し緩やかに上昇するとみまます。

今週、米国では、13日にCPI、15日に小売売上高、鉱工業生産、16日にPPIと重要経済指標の発表が続きます。これらにおいて緩やかな物価の伸び減速と経済活動の底堅さが確認されればFRBの早期利下げ期待と相まってリスク資産にとって居心地の良い状況が続くとみまますが、インフレや経済活動の想定以上の強さが示されれば早期利下げ期待が後退し、史上最高値圏まで上昇してきた米国株のバリュエーション調整に繋がる可能性もあり、これらを控えた様子見姿勢が高値警戒感とともに上値抑制に働くとみまます。ただし、先週末までに発表された10-12月期決算は輸送用機器や電気・ガス業中心に市場予想をやや上回る堅調な内容となっており、今週発表の企業決算も堅調なものとなれば足元までの業績を評価した買いが継続し、株値にプラスに働くとみまます。また、先週、日銀の内田副総裁がマイナス金利解除後も緩和的な金融環境を維持する姿勢を示したことで連続利上げや過度な引き締めへの警戒感が後退したこともプラス材料と考えており、国内株の緩やかな上昇基調はしばらく継続するとみまます。その他の注目材料として、日本では13日の企業物価指数、15日のGDP速報値、米国では15日のニューヨーク連銀製造業景気指数、16日の住宅着工件数、ミシガン大学消費者信頼感指数、欧州では14日のユーロ圏鉱工業生産、ドイツでは13日のZEW期待指数などが挙げられます。



朝日ライフ アセットマネジメント株式会社
Asahi Life Asset Management Co.,Ltd.

URL: <https://www.alamco.jp>

金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第301号
加入協会: 一般社団法人投資信託協会/一般社団法人日本投資顧問業協会

本資料は、朝日ライフ アセットマネジメント(以下、「当社」といいます。)、が、投資の参考となる情報提供を目的として作成したもので、特定の商品に対する投資勧誘を意図するものではありません。本資料は当社が信頼できると判断した情報に基づき作成しておりますが、その正確性、完全性を保証するものではありません。資料中に記載されたグラフ、数値等は過去の実績であり、将来の運用成果等を保証するものではありません。また、コメントについては作成日時点での判断であり、将来予告なく変わることがあります。最終的な投資決定はお客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。